

鹿児島市教育振興基本計画（前期）（抜粋）

○鹿児島市の教育の取組における視点（基本的な考え方）

1 生涯を通じて自らを磨き、生活や職業に必要な知識等を継続的に習得することができる生涯学習社会の実現

これからの変化の激しい社会においては、学校教育段階はもとより、生涯を通じて自らを磨き、高めていくことが一層重要になります。一人一人がより良く生きるための意欲と力を生涯にわたって鍛え、人生を豊かなものにしなければなりません。

個人の発達段階やそのとき置かれている状況等を踏まえつつ、だれもが若年期から高齢期まで生涯を通じて質の高い教育や学習に取り組み、その成果を生かすことのできる社会の実現を目指す必要があります。

2 学校・家庭・地域の連携強化による社会全体の教育力の向上

教育は、個人により良く生きる力を与えるとともに、社会全体の存立基盤を形づくる価値形成活動であり、国、地方公共団体、学校、保護者、地域住民、企業、社会教育団体、民間教育事業者、NPO、メディアなど、官・民を通じた様々な関係者の取組により成り立っています。このうち、行政、学校、家庭等教育に直接携わる者に特に大きな責任があることは言うまでもありませんが、地域住民や企業等も受身的な立場にとどまることなく、自らも社会の一員として教育に責任を共有するとの認識を持って、学校運営などに積極的に参画することが期待されます。

学校や行政においても、広く様々な分野からの協力を得て、学校を地域に開かれたものにしていく努力が必要です。

3 我が国と郷土を愛し、公共の精神を尊び、社会の形成に主体的に参画する人材の育成

これからの人材育成においては、グローバル化の中で、自らが国際社会の一員であることを自覚して、自分とは異なる文化や歴史の中にいる人々と共生していくことが重要です。このためには、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことが必要です。

また、互いに支え合い協力し合う互助の精神に基づき、個人の主体的な意志により、自分の能力や時間を他人や地域社会のために役立てようとする意識を高めることが重要です。そして、国や社会の問題を自分自身の問題として考え、そのために積極的に行動する人材を育成していくことが重要です。

○今後5年間に取り組む施策の方向性

(1) 道徳心や社会性を養い、心身ともにたくましい子どもを育成する

自他への思いやりや情操を育む「豊かな心」の育成に努めるとともに、人間として持つべき規範意識や倫理観といった道徳性を養うための道徳教育を充実していきます。

また、積極的に運動に親しむ習慣や意欲、能力の育成、体力の向上、健康の保持増進のための実践力の育成を図るとともに、食に関する指導の充実などを図っていきます。

(2) 「確かな学力」を持ち、個性あふれる子どもを育成する

子どもたちが、基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、学習意欲の育成とそれにつながる学習習慣の確立を推進します。

また、社会の形成者として必要な基本的資質を養っていきます。

(3) 信頼される開かれた学校教育を推進する

教員が子どもと向き合う時間を確保するとともに、安心して職務に取り組める環境づくりに努めます。

また、教職員の資質や能力の向上、学校施設の質的整備や地域と連携した登下校の安全対策等を推進します。

(4) 家庭や地域の教育力を高め、社会全体で人づくりを進める

家庭教育の自主性を尊重しつつ、教育の原点である家庭の教育力を高めるため、子育てに関する講座の開設や子育てを支援する情報提供に努めます。

また、本市の特徴である校区公民館活動を中心とした地域全体での教育力の向上に取り組んでいきます。

(5) スポーツや文化の振興を図るとともに、だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくりに努める

子どもから高齢者まで、一人一人が体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでもスポーツに親しむ環境づくりに努めます。

また、文化芸術に触れ親しむ機会の充実を図るとともに、文化芸術活動の支援と育成を進めていきます。

市民だれもが生涯にわたって学ぶことができ、生きがいのある充実した人生を送ることができる「生涯学習社会の実現」に向けた推進体制の充実・強化を図るとともに、学習成果を地域社会の発展に生かすための支援方を講じていきます。